## 平成七年法律第百二十二号

国際機関等に派遣される防衛省の職員の処遇等に関する法

第一条 この法律は、軍備管理若しくは軍縮又は人道的精神に基づき行われる活動に対する協力等 年法律第百二十号)第二条に規定する一般職に属する職員を除く。 遇等について定めるものとする。 外国政府の機関等に派遣される防衛省の職員 以下「職員」という。)の処 (国家公務員法 (昭和二十二

関の要請に応じ、これらの機関の業務に従事させるため、職員(政令で定める職員を除く。以下11条 防衛大臣は、条約その他の国際約束若しくはこれに準ずるものに基づき又は次に掲げる機 を除く。)の派遣は、防衛装備庁長官が行う。 この項において同じ。)を派遣することができる。ただし、防衛装備庁に所属する職員(自衛隊 (昭和二十九年法律第百六十五号)第三十条の二第一項第六号に規定する幹部隊員及び自衛官

- 我が国が加盟している国際機関

前二号に準ずる機関で、政令で定めるもの

- いて行うものに限る。 前項の業務は、次に掲げるものとする。ただし、第八号から第十一号までに掲げる業務にあっ は、国際連合事務局の内部部局であって当該業務を所掌するものとして政令で定めるものにお 2
- 察その他の検証 軍備管理又は軍縮に関する条約その他の国際約束で我が国が締結したものに基づいて行う査
- 前号に規定する条約その他の国際約束に基づいて行う技術上の協力
- 人道的精神に基づいて行う医療その他の援助

前三号に掲げる業務の遂行に必要な交渉若しくは調整、調査若しくは研究又は訓練

学術に関する研究又は教育 前各号に掲げる業務の管理

前各号に掲げる業務に準ずるものとして政令で定める業務

の方針の策定又は当該活動の基準の設定若しくは計画の作成 請に基づき参加する二以上の国及び国際連合によって実施されるもののうち、次に掲げるもの することを目的として、国際連合の統括の下に行われる活動であって、国際連合事務総長の要 な手段による統治組織の設立及び再建の援助その他紛争に対処して国際の平和及び安全を維持 による混乱に伴う切迫した暴力の脅威からの住民の保護、武力紛争の終了後に行われる民主的 国際連合の総会又は安全保障理事会が行う決議に基づき、武力紛争の当事者(以下この号に いて「紛争当事者」という。)間の武力紛争の再発の防止に関する合意の遵守の確保、紛争 2

の当該活動が行われることについての同意がある場合に、いずれの紛争当事者にも偏ること を行う機関がある場合にあっては、当該機関。以下この号において同じ。)及び紛争当事者 域の属する国(当該国において国際連合の総会又は安全保障理事会が行う決議に従って施政 なく実施される活動 武力紛争の停止及びこれを維持するとの紛争当事者間の合意並びに当該活動が行われる地 第九条 派遣職員に関する給与法第二十三条第一項の規定の適用については、 を公務とみなす。

- 合に実施される活動 武力紛争が終了して紛争当事者が当該活動が行われる地域に存在しなくなった場合におい 当該活動が行われる地域の属する国の当該活動が行われることについての同意がある場
- を主要な目的として、特定の立場に偏ることなく実施される活動 該活動が行われることについての同意がある場合に、武力紛争の発生を未然に防止すること 武力紛争がいまだ発生していない場合において、当該活動が行われる地域の属する国の当
- 人道的精神に基づいて行われる地雷の除去に関する活動(前号に掲げるものを除く。)の援 の方針の策定、当該活動が円滑に行われるための基準の設定若しくは計画の作成又は当該活

- 前二号に掲げる業務の遂行に必要な交渉若しくは調整又は調査若しくは研究
- 3 意を得なければならない。 防衛大臣又は防衛装備庁長官は、 第一項の規定により職員を派遣する場合には、 当該職員の 同

(派遣職員の身分)

| 第三条 前条第一項の規定により派遣された職員(以下「派遣職員」という。) は、 職員としての身分を保有するが、職務に従事しない。 その派遣の

第四条 防衛大臣又は防衛装備庁長官は、派遣職員についてその派遣の必要がなくなったときは、 速やかに当該職員を職務に復帰させなければならない。

2 派遣職員は、その派遣の期間が満了したときは、職務に復帰するものとする。 (派遣職員の給与)

第五条 派遣職員には、その派遣の期間中、俸給、扶養手当、地域手当、 営外手当及び期末手当のそれぞれ百分の百以内を支給することができる 広域異動 手当、

前項の規定による給与の支給に関し必要な事項は、政令で定める。

2

.派遣職員の業務上の災害に対する補償等)

第六条 派遣職員に関する防衛省の職員の給与等に関する法律(昭和二十七年法律第二百六十六 二十六年法律第百九十一号)の規定の適用については、派遣先の機関の業務を公務とみなす。 号。以下「給与法」という。)第二十七条第一項において準用する国家公務員災害補償法(昭

準用する同法第四条の規定及び給与法第二十七条第二項の規定にかかわらず、政令で定める。 の限度において、同項において準用する同法の規定による補償を行わない。 派遣先の機関等から同一の事由について当該災害に対する補償を受けたときは、国は、その価額 て準用する国家公務員災害補償法の規定による補償を行う場合において、補償を受けるべき者が 一項において準用する国家公務員災害補償法の規定による平均給与額については、同項において 派遣職員の派遣先の業務上の災害又は通勤による災害に対し、給与法第二十七条第一項におい 派遣職員の派遣先の業務上の災害又は通勤による災害に対する補償に係る給与法第二十七条第

3

第七条 派遣職員に関する国家公務員共済組合法(昭和三十三年法律第百二十八号)の規定の適用 については、派遣先の機関の業務を公務とみなす。

害補償法の規定による補償が行われないこととなった場合における当該派遣先の機関等からの補 第三項の規定により、当該災害に対する給与法第二十七条第一項において準用する国家公務員災 の災害又は通勤による災害に対して派遣先の機関等から補償が行われることとなったため、前条 償を同法の規定による補償に相当する補償とみなす。 派遣職員に関する国家公務員共済組合法の規定の適用については、派遣職員の派遣先の業務上

第八条 派遣職員に関する給与法第二十二条第一項の規定の適用については、 を公務とみなす。 派遣先の機関の業務

派遣先の機関の業務

(派遣職員に関する国家公務員退職手当法等の特例)

第十条 派遣職員に関する国家公務員退職手当法(昭和二十八年法律第百八十二号)第五条第一項 の規定の適用については、派遣先の機関の業務を公務とみなす。

2 務員退職手当法第六条の四第一項に規定する現実に職務をとることを要しない期間には該当しな 条の二第五項において準用する場合を含む。)の規定の適用については、派遣の期間は、国家公 いものとみなす。 派遣職員に関する国家公務員退職手当法第六条の四第一項及び第七条第四項(給与法第二十八

(派遣職員に関する学資金の返還等)

第十一条 ては、それぞれ派遣先の機関の業務を公務とみなす。 派遣職員に関する自衛隊法第九十八条第四項及び第九十九条第一項の規定の適用につ

(派遣職員に対する旅費の支給)

(昭和二十五年法律第百十四号) に定める赴任の例に準じ旅費を支給することができる。 (派遣職員の復帰時における処遇) 派遣職員には、特に必要があると認められるときは、国家公務員等の旅費に関する法律

第十三条 員との均衡を失することのないよう適切な配慮が加えられなければならない。 (政令への委任) 派遣職員が職務に復帰した場合における任用、給与等に関する処遇については、 部内職

第十四条 この法律に特別の定めがあるもののほか、この法律の実施に関し必要な事項は、 政令で

この法律は、 公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行す

## 附 則 (平成八年六月一四日法律第八二号)

抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成九年四月一日から施行する

## (施行期日等) 則 (平成九年一二月一〇日法律第一一四号) 抄

号)第十九条の六第二項に規定する一時差止処分についての準用に係る部分を除く。)並びに第 おいてその例によることとされる一般職の職員の給与に関する法律(昭和二十五年法律第九十五条第二項、第四項、第六項及び第七項の改正規定、同条に一項を加える改正規定(同条第七項に 部分を除く。)、同条の次に一条を加える改正規定、第二十二条の二第一項の改正規定、第二十三この法律は、公布の日から施行する。ただし、第十八条の二の改正規定(同条に一項を加える 二十四条の改正規定並びに附則第十二項の規定は平成十年一月一日から、別表第一の改正規定 (指定職の欄に係る部分に限る。)及び別表第二の改正規定(陸将、海将及び空将の欄並びに陸将 海将補及び空将補の(一)欄に係る部分に限る。)は同年四月一日から施行する。

附 則 (平成一三年一一月二八日法律第一二五号)

この法律は、公布の日から施行する。

(施行期日) (平成一七年一一月七日法律第一一五号) 抄

第一条 この法律は、平成十八年四月一日から施行する 則 (平成一七年一一月七日法律第一二二号)

抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日の属する月の翌月の初日(公布の日が月の初日であるときは、その 十五条までの規定は、平成十八年四月一日から施行する。 日)から施行する。ただし、第二条並びに附則第八条から第十九条まで及び第二十一条から第二

則 (平成一八年一二月二二日法律第一一八号)

抄

(施行期日)

第一条 この法律は、 行する。 公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施

則 (平成一八年一二月二二日法律第一二三号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十九年四月一日から施行する。

(調整規定)

第八条 この法律の施行の日が防衛庁設置法等の一部を改正する法律(平成十八年法律第百十八 号) の施行の日以後である場合には、 (」とあるのは 「防衛省の職員の給与等に関する法律」と、附則第二条中「防衛庁の職員の給与等に関する法律 「防衛省の職員の給与等に関する法律(」と、 本則中「防衛庁の職員の給与等に関する法律」とあるのは 附則第六条(見出しを含む。)中

> される防衛省の職員の処遇等に関する法律」とする。 「国際機関等に派遣される防衛庁の職員の処遇等に関する法律」とあるのは 「国際機関等に派遣

(平成一九年六月八日法律第八〇号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施 行する。

則 (平成二一年五月二九日法律第四一号)

抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

(平成二七年六月一七日法律第三九号) 抄

第一条 この法律は、 (施行期日) 附 公布の日から起算して十月を超えない範囲内において政令で定める日

[から施

行する。 附 則 (平成二七年九月三〇日法律第七六号) 抄

行する。 (調整規定)

第一条 この法律は、 (施行期日 公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施

改正する法律(平成二十八年法律第五十四号)附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日前で第二条 この法律の施行の日(附則第十条において「施行日」という。)が刑事訴訟法等の一部 等の海上輸送の規制に関する法律」とする。 上輸送の規制に関する法律」とあるのは、「武力攻撃事態及び存立危機事態における外国軍用品る場合には、同法附則第十二条(見出しを含む。)中「武力攻撃事態における外国軍用品等の海 L前であ